

委員会部会活動報告

デザイン部会

建築と場所性からデザインを考える

JIA大会金沢ヤングアーキテクトセミナーを通して



デザイン部会長 連 健夫

JIA大会金沢において、デザイン部会主催で学生、若手実務者を対象にヤングアーキテクトセミナーを林昭男氏と共に行った。テーマは、デザイン部会の今年の講演シリーズで扱っている「建築と場所性」であり、金沢の地域性、土着性、環境を調査し、プロポーザルを行うという2日間のプログラムである。予想を越え27名の参加者があり、その内訳も若手実務者3名、大学院生4名、大学生18名、専門学校生2名で建築のみならず社会学部からの参加もあるなど多彩な構成となった。参加者はあらかじめ金沢市にて自分で歩き、調べ、感じ取り、それをまとめ、1日目に講義と個人指導を受ける。そして2日目に作品の発表を行うというタイトなスケジュールであるにもかかわらず、様々なテーマの個性ある力作が出てきた。浅野川を挟む新旧の建物のファサードをテーマとした街並みを扱った作品、格子をテーマとした建築のディテールを扱った作品、坂のシークエンスをテーマに地勢を扱った作品、近江町市場と隣接する大規模店の店員の対応、売り方などを扱った領域に関する作品、新堅町と堅町における新旧のコミュニティーを扱った社会的な作品など、様々な視点が出た。それ故に発

表会では各自の作品に対しての講評を得るのみならず、他の参加者の様々な視点を知ることになった。建築の解答が一つではなく多様であると共に、その視点さえも多様であることを理解するのに良い機会となる。特に、近代建築思想をベースにした機能的、効率的な解決だけでは、答えられない今日においては、益々、多様な価値観を活かす柔軟な手法が求められている。従って、作品へのアドバイスは、各自の興味と視点を活かすと共に、刺激を与える意味で別な観点を紹介することになる。もちろん、表現方法や構造、材料などの技術的なアドバイスは作品ごとに併せて行う。さて、そこで生じる疑問として、多様な価値観とは単に多様であると考えてだけで良いのかという問いと、多様な価値観を活かす手法とは何なのかという問いである。一つの見方として「物語性」があろう。時間軸を大切にすると視点で、その地域の伝統や歴史は何なのか、その地域における環境特性と生活との関係やその地域におけるコミュニティと人の意識、あるいはそこに住んでいる人の原風景や思い出とは何なのか、どのような出来事と物語が生じているのか、土着の文化が今後どうなるのかなどの視点である。これらは、



プログラム説明と林昭男氏の講演



作品発表の前に図面を作成する参加者



講評会では様々なところに話が及ぶ

従来の機能性、効率性の視点からは拾えなかった見方でもある。この視点はやや文化人類学的でもあるし、社会的、心理学的な側面も持っており、従来の建築工学的な視点では扱わなかったものかもしれない。そして、それらを把握する手法とデザインへの変換手法については、資料のみにたよるのではなく、むしろ体験的なものが大切になってくるのではないかと。つまり、より個人的な視点と身体性が求められ、その精度、感度が問われているのではないかと。そして、その視点による探求から生まれる創造的なジャンプが変換のデザインと考えても良いのではないと思う。

このセミナーを企画し、参加者の個性ある力作を見て、このことを改めて感じるようになった。もちろん作品に対する評価は、参加者のこれからの今後の展開に委ねられているが、はっきりしている良さは、参加者間の刺激と交流であろう。最終日、林氏のスピーチの後、参加者間でメールアドレスなどの交換が行われている光景を見て、大学間、事務所間の風通しを良くする交流の場を提供するのはJIAの大切な役割であるように感じた。

この足跡として、全参加者の名前と作品の一部を紹介したい。

参加者：岡本祐子（JIA 神奈川経済連）、河村靖雄（鼎設計事務所）、大野久美子（大野建築事務所）、松本裕樹、南政宏、和田さや子、宝達佳奈（以上滋賀県立大学）、平田勝広、塚田顕治、上井恵子、刈谷昌平、小林洋之、新田一真（以上金沢工業大学）、後藤隆志（立命館大学）、相良昌世、松森丈晴（以上大谷大学）、川関拓郎、柏迫俊一、丹治大介、宮崎潤、山川彩、小川貴之、後藤克士、田中 大介、藤田英介（以上明治大学）、玉城仁人、江川周征（以上日本建築専門学校）

講師：林昭男、連健夫 協力：宮下智裕

（有）連健夫建築研究室 主宰



対岸ファサードの再構成（岡本祐子）

到着を受けた2日間だった。古い街並みの保存と新しい生活空間の創出を両立する上で、「金沢」が直面しているのは「既成概念としての伝統」を再考する意気込みでセミナーに臨んだが、翌日金沢城五十間屋の本館を見て、「伝統とは何か」という問いに答えを出す難しさを改めて感じた。多少強引でも限られた時間の中で即答する訓練は觸発力を養う。難不足明けープレゼの解放感中毒の私は、またワークショップに参加したいと思っている。



近所づきあいから見た新旧金沢の街（後藤隆志）

私にとって、ヤングアーキテクトセミナーは大変貴重な体験になりました。私達は様々な人達にインタビューを試み、そこから金沢の町の課題点を考察しました。色々な人達と話すことによって、金沢に住む人々の日常を垣間見ることが出来ました。また、セミナーでは日頃出会うことのない、研究の異なる学生同士が集い、議論できたということも非常に大きな収穫でした。今後もこのような交流の場に積極的に参加していこうと思います。



金沢の坂のシークエンスからの変換（宝達佳奈）

突然参加を決めた今回のセミナー。当日まで何をやるのかわかっていなかった。初日説明を受けたのはワークショップのおもしろさだった。翌日の講評会まで何に着手し提案できるか興味とともに不安も感じた。私は地元金沢を坂・階段という点から調査した。講評会ではみんな切り口の違う金沢を見せてくれた。住んでいても気付かない視点がかりだった。短期間に自分の足で調べる。授業にはない楽しさがあり、充実した2日間だった。